

九州厚生局長 殿

琉球大学医学部附属病院長
村山 貞

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	48 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	352人	3.5人	355.5人	看護補助者	74人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	22人	0人	22人	理学療法士	6人	臨床検査技師	34人
薬剤師	24人	0人	24人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	23人	0人	23人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	568人	16.6人	584.6人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0.7人	0.7人	栄養士	1人	その他の技術員	29人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	0人	事務職員	189人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	26人	その他の職員	17人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	459.9 人	19.6 人	479.5 人
1日当たり平均外来患者数	1010.7 人	71.4 人	1082.1 人
1日当たり平均調剤数			757.9 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ焼灼療法	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ヘパリン運動療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 インターベンションやバイパス術が困難な重症虚血性心疾患または下肢閉塞性動脈硬化症の患者に対しヘパリン70 μ /kgを静注し、静注後15分～60分の間に症候限界の運動(歩行)を繰り返して実施する。1日2回14日間行うことで虚血症状が軽減しADLが改善する。			
医療技術名	アミノレブリン酸による術中蛍光診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 アミノレブリン酸は悪性脳腫瘍の細胞内に選択的に取り込まれポルフィリンヘム代謝酵素により、ミトコンドリア内にてプロトポルフィリンIXへと合成される。プロトポルフィリンIXは紫外光により励起されて蛍光を発するため術中の腫瘍の同定に有用である。			
医療技術名	画像誘導装置を用いた脳腫瘍摘出術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 脳腫瘍の摘出において、術中にニューロナビゲーションシステムを用いて頭蓋内病変の位置と周囲神経繊維の位置を同定し、より安全で確実な病変の摘出と神経機能温存を可能にする技術である。			
医療技術名	術中ICG蛍光血管撮影	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 術中にインドシアングリーン(ICG)を静脈内投与し、赤外線による蛍光により頭蓋内血管を摘出する。脳腫瘍における栄養血管の評価、周囲静脈系の評価、血行再建術における血行の評価、クリッピング術中の評価に有用である。			
医療技術名	術中神経モニタリング	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 術中に誘発電位や筋電図を記録することにより、神経機能を直接評価しつつ手術を行うことができる。運動誘発電位、脳神経モニタリング、聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位、視覚誘発電位があり神経機能温存のために有用である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ペーチェット病	21人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	7人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	24人	・原発性胆汁性肝硬変	27人
・全身性エリテマトーデス	98人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	48人
・再生不良性貧血	12人	・混合性結合組織病	16人
・サルコイドーシス	43人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	5人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	113人	・網膜色素変性症	29人
・特発性血小板減少性紫斑病	17人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	14人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	155人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	6人
・ビュルガー病	32人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	6人
・天疱瘡	40人	・慢性血栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	5人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	142人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	1人	・脊髄性筋委縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	35人	・球脊髄性筋委縮症	0人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靭帯骨化症	31人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	12人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	31人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	33人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 13回/年 ・検査部症例検討会 2～4回/月
部 検 の 状 況	部検症例数 33 例 / 部検率 18.50%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
再生医学的視点による腫瘍内マクロファージの樹状細胞への再分化法の確立	齊尾 征直	病理部	1,040,000	補 日本学術振興会
中咽頭癌の放射線治療効果予測における低酸素状態に関連する遺伝子群の意義	小川 和彦	放射線部	1,170,000	補 日本学術振興会
尿路上皮癌患者尿のモノクローナル抗体RM2へ反応する糖蛋白の解析と臨床意義	松村 英理	泌尿器科	1,430,000	補 日本学術振興会
血管平滑筋細胞の動脈硬化性形質転換におけるトリグリセリド代謝の意義	松本 裕文	病理部	1,170,000	補 日本学術振興会
糖尿病合併冠動脈疾患患者における、心拍低下療法の妥当性を問う観察研究	井上 卓	専門研修センター	1,820,000	補 日本学術振興会
地域(沖縄県浦添)における慢性腎臓病患者診療の実態:自然歴、治療経過に関する研究	井関 邦敏	血液浄化療法部	1,300,000	補 日本学術振興会
若齢期の人工甘味料曝露によるレプチン抵抗性獲得機構の解明	屋比久 浩市	第二内科	1,430,000	補 日本学術振興会
脊髄虚血後の痙性対麻痺に及ぼす α 2アドレナリン受容体アゴニストの鎮痙作用	淵上 竜也	集中治療部	1,040,000	補 日本学術振興会
ビタミンK高含有沖縄野菜の摂取制限がワルファリンの薬効に与える影響の調査	又吉 哲太郎	専門研修センター	650,000	補 日本学術振興会
C型肝炎ウイルス複製に対する脂肪沈着、およびアディポサイトカインの作用	山城 剛	輸血部	430,000	補 日本学術振興会
沖縄県における夜型の生活習慣が勤労者の血圧日内変動に与える影響の研究	菅原 麻世	検査部	94,922	補 日本学術振興会
UGT1A4の遺伝子多型からみたモトリギンの副作用発現予測	赤嶺 由美子	薬剤部	500,000	補 日本学術振興会
分子標的薬と制吐剤の相互作用に関わるPK/PD予測	潮平 英郎	薬剤部	700,000	補 日本学術振興会
寄生虫の検査診断を目的としたLAMP法における糞便中の遺伝子増幅阻害物質の解明	名護 珠美	検査部	500,000	補 日本学術振興会
喫煙によるCOPD患者とその家族の呼吸機能検査について	根路銘 国政	検査部	400,000	補 日本学術振興会
尿路上皮癌の新規尿中マーカー 80KDa糖蛋白の臨床的意義と生物学的役割	木村 太一	泌尿器科	1,820,000	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
頭頸部癌治療における高濃度酸素療法の可能性とロックス1発現に関する検討	真栄田 裕行	耳鼻咽喉科	4,030,000	補 日本学術振興会
一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスを用いた大動脈瘤/大動脈解離発症の解明	新垣 久美子	地域医療部	1,300,000	補 日本学術振興会
硫化水素による神経細胞保護の可能性ー初代神経細胞での検討ー	神里 興太	手術部	2,470,000	補 日本学術振興会
CKDの早期発見、予防、治療標準化、進展阻止に関する調査研究	井関 邦敏	血液浄化療法部	1,500,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
戦略研究(腎疾患重症化予防のための戦略研究)	井関 邦敏	血液浄化療法部	800,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	小川 和彦	放射線部	300,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究	増田 昌人	がんセンター	750,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
B型肝炎のジェノタイプA型感染の慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究	前城 達次	第一内科	1,000,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
治験の実施に関する研究(Lーアルギニン)	知念 安紹	小児科	1,000,000	補 厚生労働省科研費
原発性高脂血症に関する調査研究	太田 孝男	小児科	1,500,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	小川 和彦	放射線部	600,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
門脈血行異常症に関する調査研究	國吉 幸男	第二外科	600,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	戸板 孝文	放射線科	600,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
国内で流行するHIV遺伝子型および薬剤耐性株の動向把握と治療方法の確立に関する研究	健山 正男	第一内科	2,500,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
生薬を用いた東アジア地区伝統医学と漢方医学の構成薬物及び配合比、表記法などに関する比較研究とデータベース作成	廣瀬 康行	医療情報部	1,000,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)
HTLV-1感染に関する非ATL非HAM希少疾患の実態把握と病態解明	藤田 次郎	第一内科	1,700,000	補 厚生労働省科研費(研究分担者)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
卵巣明細胞腺癌に対するテムシロリムスを含む化学療法の有効性及び安全性に関する研究	青木 陽一	産婦人科	1,000,000	補	厚生労働省科研費
現場の実状を踏まえた我が国のがん対策のあり方に関する研究	増田 昌人	がんセンター	800,000	委	独立行政法人 国立がん研究センター
沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託	藤田 次郎	第1内科	690,000	委	沖縄県
ホスピス・緩和ケア フォーラム	増田 昌人	がんセンター	1,300,000	委	公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
地域統括相談支援センター事業	増田 昌人	がんセンター	8,686,000	委	沖縄県

計 37

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Clin Oncol	Radiotherapy quality assurance of the Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG1066): a cooperative phase II study of concurrent chemoradiotherapy for uterine cervical cancer.	戸板 孝文	放射線科
Anticancer Res	High-risk group for locoregional recurrence in patients with stage IB-IIB squamous cell carcinoma of the cervix treated with concurrent chemoradiotherapy.	平川 誠	産婦人科
J Obstet Gynaecol	Pseudoaneurysm with arteriovenous fistula due to placenta increta following first-trimester abortion.	知念 行子	産婦人科
Anticancer Res	Severe late complications in patients with uterine cancer treated with postoperative radiotherapy.	粕谷 吾朗	放射線科
Reprod Med Biol	Comparison between the gonadotropin-releasing hormone antagonist protocol and the gonadotropin-releasing hormone agonist long protocol for controlled ovarian hyperstimulation in the first in vitro fertilization-embryo transfer cycle in an unspecified population of infertile couples.	銘苺 桂子	周産母子センター
Arch Gynecol Obstet	Hysteroscopic tubal catheterization under laparoscopy for proximal tubal obstruction	銘苺 桂子	周産母子センター
日本産婦内視鏡学会誌	腔欠損症に対して腹腔鏡補助下造脛術 (Davydov変法) を施行した1例	銘苺 桂子	周産母子センター
臨床婦人科産科	糖尿病合併妊娠, 妊娠糖尿病における母体の妊娠前BMI, 妊娠中インスリン量, 妊娠中体重増加率と児出生体重との相関についての検討	林 形	産婦人科
沖縄産科婦人科学会誌	75g OGTT 1 point陽性例の妊娠予後に関する検討	平良 祐介	産婦人科
沖縄産科婦人科学会誌	～若年者子宮体癌の卵巣転移に関する検討～ 卵巣温存は可能か?	金城 淑乃	産婦人科
沖縄産科婦人科学会誌	当科におけるRadical abdominal trachelectomy (RAT) の治療成績	新垣 精久	産婦人科
沖縄産科婦人科学会誌	子宮頸癌に対するConcurrent Chemoradiotherapy後の再発症例に関する検討	佐久間 さき	産婦人科
沖縄産科婦人科学会誌	妊娠中に内視鏡的乳頭括約筋切開術を施行した総胆管結石症の1例	新田 迅	産婦人科
環境感染誌	アデノシン三リン酸測定を用いた手術時手洗い評価の臨床的意義	久田 友治	手術部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術医学	手術部の医療機器故障に関する臨床工学技士の役割	久田 友治	手術部
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics (2011) 2, 12-23	How can we classify "mood stabilizers" with different properties?	Tsuyoshi Kondo	精神科神経科
Influenza Other Respi Viruses	Hamman-Rich syndrome revisited: how to avoid misdiagnosis.	Jiro Fujita	第一内科
World J Gastrointest Endosc	Endoscopic and radiographic features of gastrointestinal involvement in vasculitis.	Akira Hokama	第一内科
Intern Med	Immunohistochemical findings of an autopsied lung specimen from a patient with pandemic influenza (A/H1N1pdm) virus infection.	Jiro Fujita	第一内科
J Hosp Infect	Legionella pneumophila contamination in a steam towel warmer in a hospital setting.	Futoshi Higa	第一内科
Pathol Res Pract	Distribution of mycobacterial antigen based on differences of histological characteristics in pulmonary Mycobacterium avium infectious diseases—consideration of the extent of surgical resection from the pathological standpoint.	Kenji Hibiya	第一内科
Am J Surg Pathol	Histologic and immunohistochemical analyses of α -fetoprotein-producing cancer of the stomach.	Tetsu Kinjo	第一内科
West J Emerg Med	"Playboy bunny" sign of congestive heart failure.	Akira Hokama	第一内科
Influenza Other Respi Viruses	Role of neuraminidase inhibitor chemoprophylaxis in controlling nosocomial influenza: an observational study.	Futoshi Higa	第一内科
J Infect Chemother	Identification of Legionella pneumophila serogroups and other Legionella species by mip gene sequencing.	Attiya Haroon	第一内科
Comp Immunol Microbiol Infect Dis	Pigs as an experimental model for systemic Mycobacterium avium infectious disease.	Kenji Hibiya	第一内科
Gastrointest Endosc	Esophageal perforation by fish bone ingestion.	Yasushi Ihama	第一内科
Am J Trop Med Hyg	A case of pulmonary and hepatic cystic Echinococcosis of CE1 stage in a healthy Japanese female that was suspected to have been acquired during her stay in the United Kingdom.	Kiwamu Nakamura	第一内科
日本化学療法学会雑誌	沖縄県における抗インフルエンザ薬の使用状況に関する市場調査とその要因に関するアンケート調査	砂川 智子	第一内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastrointest Endosc	Endoscopic and histopathological features of gastrointestinal amyloidosis.	Akira Hokama	第一内科
J Emerg Trauma Shock	The falciform ligament sign of pneumoperitoneum.	Akira Hokama	第一内科
J Med Microbiol	Interleukin-1 alpha produced by human T-cell leukaemia virus type I-infected T cells induces intercellular adhesion molecule-1 expression on lung epithelial cells.	Yuuko Nakayama	第一内科
日本内科学会雑誌	結核性リンパ節炎と鑑別を要した高齢者猫ひっかき病の1例	田里 大輔	第一内科
Influenza Other Respi Viruses	Comparison of critically ill patients between different outbreaks caused by pandemic H1N1 2009 influenza virus in Okinawa, Japan.	Jiro Fujita	第一内科
日本呼吸器学会雑誌	治療経過中に再増悪を認めた腎移植後のニューモシチス肺炎の1例	平井 潤	第一内科
日本呼吸器学会雑誌	A-DROPに基礎疾患と呼吸数を追加したシステムの30日死亡予測の検討	健山 正男	第一内科
Influenza Other Respi Viruses.	Single-dose inhaled laninamivir: registered in Japan and its potential role in control of influenza epidemics.	Sunagawa S*, Higa F, Cash HL, Tateyama M, Uno T*, Fujita J.	薬剤部
Br J Clin Pharmacol.	Carbamazepine differentially affects the pharmacokinetics of fexofenadine enantiomers.	Akamine Y*, Miura M, Yasui-Furukori N, Kojima M, Uno T*.	薬剤部
J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.	Chiral assay of omeprazole and metabolites and its application to a pharmacokinetics related to CYP2C19 genotypes.	Shiohira H*, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Uno T*.	薬剤部
J Antibiot (Tokyo).	Comparison of drug sensitivity and genotypes of clinically isolated strains of levofloxacin-resistant Streptococcus pneumoniae obtained from Okinawa Island, the Japanese main island and Hong Kong.	Sunagawa S*, Fujita J, Higa F, Tateyama M, Haranaga S, Nakasone I, Yamane N, Uno T*.	薬剤部
Jpn J Clin Pharmacol Ther.	Influence of genetic polymorphisms and non-genetic factors upon warfarin maintenance dose in Japanese elderly patients.	Nakashima H, Miura J, Uno T*, Matsunaga T, Tateishi T.	薬剤部
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics.	The role of drug transporters on psychotropic penetration of the blood-brain barrier.	Akamine Y*, China K* Uno T*.	薬剤部
日本高気圧環境・潜水医学会雑誌	網膜動脈閉塞症、及び黄斑浮腫を伴った網膜静脈閉塞症、糖尿病性網膜症などに対する高気圧酸素療法(HBO)～国内外の主要な文献から～	井上 治	高気圧治療部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本高気圧環境・潜水医学会雑誌	急速減圧ラットにおける脳微小血管の組織化学的観察	野原 敦	高気圧治療部
No Shinkei Geka	Diagnosis and treatment of cognitive deficits caused by radiation in patients with brain tumours.	Ishiuchi S	脳外科
J Dermatol	Nosocomial outbreak of multidrug-resistant USA300 methicillin-resistant Staphylococcus aureus causing severe furuncles and carbuncles in Japan.	Mine Y	皮膚科
J Dermato	Cutaneous leishmaniasis in a Japanese returnee from West Africa successfully treated with liposomal amphotericin B.	Ono M	皮膚科
J Dermatol	Tinea corporis caused by Microsporum gallinae: first clinical case in Japan.	Miyasato H	皮膚科
Endoscopy	Cytomegalovirus-associated gastric ulcers in a patient with dermatomyositis treated with steroid and cyclophosphamide pulse therapy.	Hoshino K	皮膚科
Eur J Dermatol	Seborrheic keratosis in a young patient with non-bullous congenital ichthyosiform erythroderma.	Nakamizo S,	皮膚科
西日本皮膚科	低用量ステロイドとシクロスポリン併用が奏効した Hypereosinophilic Syndromeの1例	栗澤遼子	皮膚科
癌と化学療法	悪性グリオーマにおける高気圧酸素の応用	別府高明	救急医学 (高気圧)
日本職業・災害医学会誌	一酸化炭素中毒における社会的な課題～社会的損失の推計から～	合志清隆	救急医学 (高気圧)
Critical Care	Revised trauma scoring system to predict in-hospital mortality in the emergency department: Glasgow Coma Scale, age and systolic blood pressure score. 20011 15(4):R191	近藤 豊	救急医学 (高気圧)
日本外傷学会雑誌	輪状甲状靭帯切開、右顎下腺全摘出術を必要とした頸部杖創の一例2011; 25(4)	近藤 豊	救急医学 (高気圧)
Emergency Medicine Journal	Symmetrical femoral vein bubble caused by decompression illness. doi10.1136/ememed-2011-200991	近藤 豊	救急医学 (高気圧)
日本蘇生学会雑誌	大規模災害時の医療支援～東日本大震災～2011;30(2) 77-81	近藤 豊	救急医学 (高気圧)
日本集団災害医学会	大規模災害時の遠隔地支援の重要性 -東北地方太平洋沖地震での被災地から最も離れた沖縄県からの医療支援の経験-	近藤 豊	救急医学 (高気圧)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Vascular Disease	Repeat operation for pseudoaneurysm of left ventricular outflow in a patient with concomitant Takayasu's arteritis and Marfan syndrome	Satoshi Yamashiro	第二外科
Annals of Vascular Disease	Cardiac and aortic re-operation for patients with functional grafts after CABG	Satoshi Yamashiro	第二外科
日本臨床外科学会雑誌	術後13年目に大網再発した骨盤内後腹膜悪性血管周皮腫の1例	金城 泉	第二外科
日本内分泌学会雑誌	肥満とメタボリックシンドローム	益崎 裕章	第二内科
日本内分泌学会雑誌	メタボリック症候群と動脈硬化	益崎 裕章	第二内科
日本内分泌学会雑誌	遺伝子変異(Gln692Ter)の地域集積性が示唆されたサイグロブリン遺伝子異常症の一例	仲村 英昭	第二内科
日本内分泌学会雑誌	異所性脂肪蓄積の糖脂質代謝に及ぼす影響：腹部CTを用いた新規評価	平良 伸一郎	第二内科
日本内分泌学会雑誌	低血糖発作を契機にインスリノーマと診断され、局在診断に選択的動脈刺激静脈サンプリング(ASVS)を要した1例	難波 豊隆	第二内科
日本内分泌学会雑誌	副腎性、卵巣性の多毛症が疑われたが内分泌学的異常を認めなかった原発性多毛症の一例	砂川 澄人	第二内科
日本内分泌学会雑誌	脳腫瘍術後30年で汎下垂体機能低下症と診断された1例	中山 良朗	第二内科
Biochimica et Biophysica Acta	Human T-cell leukemia virus type 1 Tax transactivates the matrix metalloproteinase 7 gene via JunD/AP-1 signaling	S. Nakachi	第二内科
糖尿病	内臓脂肪蓄積型高血圧：エクスペリエンスと治療戦略	益崎 裕章	第二内科
糖尿病	ピタバスタチン、アトルバスタチンの2型糖尿病脂質プロファイルに及ぼす効果の違い	山川 研	第二内科
糖尿病	CGMによる食後血糖モニターを活用した糖尿病治療薬最適化の試み	植田 玲	第二内科
糖尿病	生活習慣改善および薬剤介入が異所性脂肪蓄積、糖脂質代謝に及ぼす影響	平良 伸一郎	第二内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
糖尿病	後頭部深在性膿皮症を契機に糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)を発症した2型糖尿病の1例	中山 良朗	第二内科
糖尿病	著名な高インスリン血症と異所性脂肪蓄積を伴った肥満2型糖尿病の1例	砂川 澄人	第二内科
日本内科学会雑誌	ホモ接合体性家族性高コレステロール血症の1例	土井 基嗣	第二内科
Journal of Endocrinology and Metabolism	Serum Levels of B-Cell Activating Factor of TNF Family (BAFF) as a Useful Indicator for the Activity of Graves Disease	S. Sunagawa	第二内科
日本内分泌学会雑誌	TNFファミリーに属するサイトカインBAFFの血中濃度はバセドウ病の活動性を反映する	砂川 澄人	第二内科
日本内分泌学会雑誌	原発性アルドステロン症に対側副腎のサブクリニカルクッシング症候群を合併した1例	中山 良朗	第二内科
日本内科学会雑誌	A novel. Interdisciplinary approach toward the rapid expansion of obesity and metabolic syndrome in Japan	益崎 裕章	第二内科
臨床血液	Measurement of in vivo recovery is useful for surgery in hemophilia with intraindividual variability	T. Tomoyose	第二内科
臨床血液	治療に難渋した副腎原発悪性リンパ腫の2例	仲地 佐和子	第二内科
肥満研究	現代沖縄型食・ライフスタイルがもたらす食の嗜好性変化のメカニズム	益崎 裕章	第二内科
肥満研究	尿酸代謝とメタボリックシンドロームー新しい知見と集積するエヴィデンスー	益崎 裕章	第二内科
肥満研究	エイコサペンタエン酸は高脂血症において脂肪酸構成を変化させ、血管内皮機能異常を改善する	山川 研	第二内科
糖尿病	メタボリック症候群と大血管障害	益崎 裕章	第二内科
糖尿病	妊娠糖尿病と診断され、出産3年後に1型糖尿病と診断された1例	難波 豊隆	第二内科
日本内科学会雑誌	銅欠乏性貧血の3例	仲地 佐和子	第二内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内分泌学会雑誌	当初抑うつ症と診断されていた多腺性自己免疫症候群2型の一例	砂川 澄人	第二内科
日本内科学会雑誌	Rituximabが著効したHTLV-1関連脊髄症に合併した血栓性血小板減少性紫斑病	友寄 毅昭	第二内科
日本造血細胞移植学会雑誌	慢性移植片対宿主病のある急性前骨髄性白血病に合併した移植後糖尿病：タクロリムスの血中濃度超高値による不可逆性障害の可能性	友寄 毅昭	第二内科
糖尿病学の進歩	メタボリックシンドロームと糖尿病：最近の知見	益崎 裕章	第二内科
CLINICAL AND EXPERIMENTAL NEPHROLOGY 巻: 15号: 4 ページ: 450-455 DOI: 10.1007/s10157-011-0439-8	Role of chronic kidney disease in cardiovascular disease: are we different from others?	Iseki Kunitoshi	血液浄化療法部
耳鼻と臨床(0447-7227)57巻4号 Page143-149(2011.07)	当科における声帯麻痺症例の検討	喜友名朝則	耳鼻咽喉・頭頸部外科
Auris・Nasus・Larynx(0385-8146)38巻3号 Page329-334(2011.06)	中耳真珠腫の診断における拡散強調MRIの有効性 (Efficacy of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in the diagnosis of middle ear cholesteatoma) (英語)	我那覇 章	耳鼻咽喉・頭頸部外科
日本気管食道科学会会報(0029-0645)62巻4号 Page377-383(2011.08)	声帯麻痺に対する最近の手術的治療 特にTitanium Plateを使用した音声再建について	真栄田 裕行	耳鼻咽喉・頭頸部外科
日本外傷学会雑誌 (1340-6264) 25巻4号 Page427-430 (2011.10)	輪状甲状靭帯切開、右顎下腺全摘手術を必要とした頸部杖創の一例	近藤 豊	救急医学講座
喉頭(0915-6127)23巻1号 Page8-11(2011.06)	健康人の発声時における脳活動 functional MRIを用いた検討	喜友名 朝則	耳鼻咽喉・頭頸部外科
Otology Japan(0917-2025)21巻5号Page800-807 (2011.12)	顔面神経麻痺と肥厚性硬膜炎を合併したMPO-ANCA陽性の難治性中耳炎の一例	大田 重人	耳鼻咽喉・頭頸部外科
Eur Arch Otorhinolaryngol 268巻11号 Page 1625-1631 (2011. 11)	Prevalence and clinical features of human papillomavirus in head and neck squamous cell carcinoma in Okinawa, southern Japan	Deng Z	耳鼻咽喉・頭頸部外科
日本体質医学会雑誌	悪性腫瘍に伴う脂質代謝異常	小宮 一郎	地域医療システム学講座
Journal of Neuro-Oncology	Clinical significance of thallium-201 SPECT after postoperative radiotherapy in patients with glioblastoma multiforme	飯田 行	放射線部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Thoracic Imaging	Bronchial Diverticula Detected by Multidetector-Row Computed Tomography: Incidence and Clinical Features.	富良 哲博	放射線科
Anticancer Research	Clinical significance of HIF-1 α expression in patients with esophageal cancer treated with concurrent chemoradiotherapy.	小川 和彦	放射線部
International Journal of Radiation Oncology, Biology Physics	Phase II trial of radiotherapy after hyperbaric oxygenation with multiagent chemotherapy (procarbazine, nimustine, and vincristine) for high-grade gliomas: long-term results.	小川 和彦	放射線部
International Journal of Radiation Oncology, Biology Physics	Radical external beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer in Japan: changing trends in the patterns of care process survey.	小川 和彦	放射線部
International Journal of Radiation Oncology, Biology Physics	Intraoperative radiotherapy for unresectable pancreatic cancer: a multi-institutional retrospective analysis of 144 patients.	小川 和彦	放射線部
Jpn J Radiol.	Estimation of pulmonary vascular resistance in patients with pulmonary fibrosis by phase-contrast magnetic resonance imaging.	鮎川 雄一郎	放射線科
Hell J Nucl Med.	Scintigraphy and computed tomography findings for the diagnosis of bronchiolitis obliterans following peripheral blood stem cell transplantation.	山城 恒雄	放射線科
Gynecol Oncol. 2011 Dec;123(3):577-80.	Changing trend in the patterns of pretreatment diagnostic assessment for patients with cervical cancer in Japan.	戸板 孝文	放射線科
Jpn J Clin Oncol. 2011 Sep;41(9):1119-26.	JCOG Radiation Therapy Study Group. A consensus-based guideline defining clinical target volume for primary disease in external beam radiotherapy for intact uterine cervical cancer.	戸板 孝文	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2012 Jan 1;82(1):e49-56.	Prospective multi-institutional study of definitive radiotherapy with high-dose-rate intracavitary brachytherapy in patients with nonbulky (<4-cm) stage I and II uterine cervical cancer (JAROG0401/JROSG04-2).	戸板 孝文	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2012 Jan 1;82(1):250-5.	International brachytherapy practice patterns: a survey of the Gynecologic Cancer Intergroup (GCIG).	戸板 孝文	放射線科
日本婦人科腫瘍学会誌. 2011; 29: 200-205.	子宮頸癌CCRTにおける放射線治療の標準化：外部照射.	戸板 孝文	放射線科
臨床放射線. 2011; 56: 1598-1602.	進行子宮頸癌：同時化学放射線療法。婦人科疾患の診断と治療 update.	戸板 孝文	放射線科
日本婦人科腫瘍学会誌. 2012; 30: 6-10.	子宮頸癌に対するCCRT：今後取り組むべき課題.	戸板 孝文	放射線科
日本口腔外科学会雑誌	Webster cheek advancement 法により口唇再建を行った下唇扁平上皮癌の1例	新垣 敬一	歯科口腔外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
西日本臨床小児 口腔外科学会雑誌	口唇裂口蓋裂患者の顎裂部骨移植におけるConcentrated Growth Factor の併用効果について	新垣 敬一	歯科口腔外科
西日本臨床小児 口腔外科学会雑誌	琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科における過去22 年間の口唇裂・口蓋裂患者の臨床統計的観察	後藤 尊広	歯科口腔外科
日本口腔ケア学会雑誌	介護老人保健施設における口腔ケア効果について	具志堅 真希	歯科口腔外科

計 120

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 村山 貞之
管理担当者氏名	総務課長 渡名喜一夫、医療支援課長 上原葉子、 放射線部長 村山貞之、薬剤部長 宇野司、看護部長 下地孝子

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	各診療日誌、看護記録は院内情報システム上で共有し、一定期間ずつプリントアウトしてファイリングしている。
	各科診療日誌、看護記録	看護部	
	検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療支援課 (診療録に貼り付け)	診療録は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理している。
	手術記録	手術部	エックス線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存としている。
	エックス線写真	放射線部	
	処方せん	薬剤部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医療支援課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部 各診療科	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十体第一の項各号状及	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	

況 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理対策室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター

確保の状況	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 村山 貞之
閲覧担当者氏名	総務課長 渡名喜 一夫
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 2階 小会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	76.1%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数		9,201人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,792人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		646人
	D:初診の患者の数		15,708人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ① 医療機関における安全管理に関する基本的な考え方 ② 医療にかかる安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 ③ 医療にかかる安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ④ 医療機関内における医療事故報告等の医療にかかる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ⑥ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 3 回
・ 活動の主な内容： ① 安全管理の対策及び教育に関すること ② 医療事故の判定に関すること ③ リスクマネジメント・マニュアルに関すること ④ 医療事故が発生したときにおける事実確認・措置及び対策に関すること ⑤ 医療紛争が生じたときの拡大防止に関すること ⑥ 訴訟が提起されたときの対策に関すること ⑦ その他安全管理、医療事故、医事紛争及び訴訟に関する重要事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： ① 当院の医療安全の基本 ② 臨床倫理「患者さんとともに悩む ～臨床倫理という考え方～」 ③ 当院の医療安全「ヒューマン・エラー」 ④ 「対話による患者とのパートナーシップ」～医療メディエーション～	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① インシデントに関する対策事項の提出 ② 分析担当者による安全確認を月 1 回巡視する。 ③ 病院管理者による院内巡視を行い、直接的に指導・確認をする。 ④ リスクマネジャー連絡会議・安全ニュース等で情報の共有を図る	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（ 4 ）名（GRM：2名＜医師、看護師＞、事務担当：2名） 兼任（ 1 ）名（室長） ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 安全管理対策に係る実施状況調査に関する事。 ② 安全管理対策に係る職員の教育研修及び具体的な指導方法に関する事。 ③ リスクマネジメント・マニュアルの改正に関する事。 ④ 医療事故及びインシデントに係る発生原因の調査・分析並びに関係部署に対する指導・助言に関する事。 ⑤ 医療事故などに係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関する事。 ⑥ 医療事故発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関する事。 ⑦ 医療紛争の原因の調査及び分析に関する事。 ⑧ 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保管、その他委員会の庶務に関する事。 ⑨ 患者相談窓口に関する事。 ⑩ その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関する事。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： ①組織について：院内に感染対策委員会と感染対策室を設置 ②感染対策室について：役割を明記 ③診療部・科長の責務の明記 ④職員報告義務 ⑤病院長の役割	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回 (臨時 1 回を含む)
・ 活動の主な内容： ①院内決定事項について：結核患者と曝露者への対応や、アウトブレイク発生時などの 対応策について決定する。 ②報告事項：耐性菌分離状況、血液培養集積状況、針刺し・切創・粘膜曝露、 抗MRSA薬使用状況と届け出率、その他	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： ◆1回目 内容：当院の耐性菌分離状況と標準予防策および経路別予防策（接触予防策）について 期間：平成23年6月27日（月） 参加人数：1064名（医師242名、看護師504名、他コメディカル：201名、事務：117名） ◆2回目 内容：事例から学ぶ血液・体液曝露の対策～自分の身は自分で守る～ 期間：平成24年1月10日（月） 参加人数：903名（医師：193名、看護師：406名、他コメディカル：192名、事務：112名） ◆3回目 内容：①バンコマイシン耐性腸球菌について ②7東病棟でのVRE対策 期間：平成24年2月29日（水） 参加人数：815名（医師：182名、看護師：391名、他コメディカル：181名、事務：61名）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①感染対策室専従看護師により、日々の耐性菌分離状況の確認と病棟への報告・対策確認の実施 ②細菌検査技師により、毎週 1 回ICTミーティングにて耐性菌分離状況確認と対策の確認 ③感染対策委員会、感染対策実務者会議、看護師長会議での報告 ④感染対策リンクナース委員会にて部署毎の感染率と手指消毒実施状況のサーベイランスの実施	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>◆第 1 回医薬品安全職員研修会 H23 年 6 月 27 日 四部署合同で開催 内容：「当院の医療安全の基本」1) 医薬品安全使用の基本について 薬剤部 外間惟夫</p> <p>◆第 2 回医薬品安全職員研修会 平成 24 年 3 月 15 日 三部署合同で開催 内容：対話による患者とのパートナーシップー医療メディエーションー 早稲田大学大学院教授 和田 仁孝</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>手順書を作成し院内各部署に配置，また必要があれば改定し改定箇所を差し替えている。実施状況は各部署責任者が手順書に基づいて業務が行われているかをチェックし，また病棟担当薬剤師が定期的に巡回、さらに年 2 回程度は手順書に基づく業務が実施されているかを，チェックリストを用いて確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1) 祝祭日のがん化学療法への対応 休日の病棟における抗がん剤混合調製への対策として，H23 年 7 月より薬剤部において 5-FU 単剤使用の場合に限り休日の前日に予製調製する対策を実施した。またそれ以外のレジメンについては，薬剤部内の安全キャビネットを医師が利用できるように体制，マニュアル等を整備した。</p> <p>2) 看護師等，院内他職種への医薬品安全使用に関する研修会 ・平成23年10月14日に院内中堅看護職員を対象に薬剤師が「静脈注射中間教育プログラムにおける薬剤の基礎知識」を講義した。 ・平成23年11月17日に看護部事故防止対策委員21名に対して，薬剤師が講師として睡眠剤の転倒リスクについて講義を実施した。</p> <p>3) インシデント事例の根本原因分析の実施 ワルファリン中止薬投与のインシデント (ID:8295) に対し，平成24年3月16日安全管理対策室と合同で根本原因分析 (RCA) を実施し，対策として指示出しフォーマットの統一，リーダー育成，指示書への変更記載者の明確化などが挙げられた。</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新規導入機器講習会、人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、血液浄化装置 除細動器、保育器、人工心肺関連装置などにおける取扱、保守点検に関する講習会 同じ内容の講習会を 2～3 回行っているものもある。(6 1 回を含む)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、除細動器、人工心肺関連装置、保育器、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ をはじめ 3 2 品目を医療機器安全管理専門委員会で決定し、保守点検計画を立て実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品医療安全総合機構 (PMDA)、厚労省通達、各企業、学会などからME機器センターで 情報収集し、院内採用機器の場合は、ME機器センター新聞、回覧などで各部署に周知徹底 を行うと共に病院長への報告を行っている。医療機器に係る院内インシデント内容、不具 合情報、院外で起こった医療機器に係る医療事故を取り上げ、月1回行っている医療機器安 全管理専門委員会で報告、分析し必要に応じ職員研修を行っている。</p>	